

神戸高校生物班 活動報告

兵庫県立神戸高等学校自然科学研究会生物班

2年 浅田さくら 松江梨々子

1年 池澤宏樹 仁田峠達也

◎生物の飼育

現在、アカハライモリ、アマガエル、川魚（ドジョウ、フナ等）、ミシシippアカミミガメ、クサガメを飼育・観察している。

◎ゆめちからの栽培

国産小麦「ゆめちから」の生育を昨年10月末より開始した。種をシャーレで発芽させた後、1プランター当たり30粒の発芽種を植え、計7プランター分用意した。



当初は、各プランターの肥料を変え、小麦のグルテン含有量の違いにより、効果的な肥料を見つける研究を行う予定であったが、諸処の事情で本年度は、同一条件下における小麦の生育観察を行った。



種から育て始めた小麦は6月下旬から7月初旬にかけて、平均75.8cmまでの高さに成長し、平均約8.4cmの穂を付けた。1月になると、苗の成長の遅さに少し不安になったが、3月に入ると成長が早くなり、葉や根元が太くなりだした。5月中旬に追肥にハイポネックスを散布、7月初旬に収穫を行った。



今後、収穫した小麦でパンまたはうどんを作りたいと思う。

◎4月30日 神戸高校文化祭

文化祭では、飼育生物や動物の剥製の展示・簡易顕微鏡の作成体験を行った。飼育生物は、トノサマガエル・アマガエル・アカハライモリ・ミドリガメ・クサガメ・ドジョウ・フナなどの動物を展示した。

動物の剥製は、ワニ・イヌワシ・サギ・カモノハシ・セイザンコウ・キツネ・タヌキやクジラの背骨を展示した。

簡易顕微鏡作成では、ビーズをレンズとしたレーウエンフックの顕微鏡を作成し、オオカナダモの細胞を観察する体験を行った。

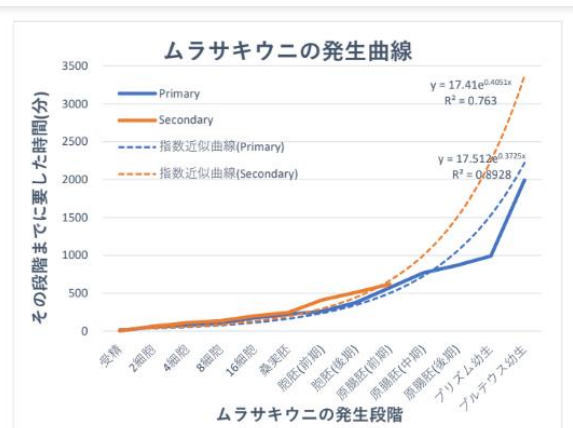
◎臨海実習

8月1日から3日まで、県立いえしま自然体験センターにて、ウニの発生実験と海の生物採集を行った。

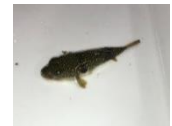


・ウニの発生実験

沿岸で採集したムラサキウニから卵と精子を取り出して受精させ、発生の様子を顕微鏡で観察した。今年は平年より海水温が高く、発生が速く進んだため、PrimaryとSecondaryの2回行い、Primaryでは約34時間後に、プルテウス幼生(4腕中期)まで観察できた。



・採集した生物はハゼ科、モズクガニ科、クモヒトデ科など約20種類の生物を採集できた。



◎青少年のための科学の祭典

9月9・10日に、バンドー青少年科学館にて青少年のための科学の祭典が行われた。今年度は、DNAの構造をビーズと針金で模したDNAストラップを作った。参加者は興味深そうにDNAに関する説明を聞きながら、ストラップ作りに熱中していた。

◎甲南大学FIBERリサーチカップ

9月24日に甲南大学リサーチカップに参加した。今年度は「遺伝子暗号を快変せよ」というテーマで行われ、チームで協力して実験を進めることができ、優勝することができた。とても嬉しかった。

